

伏見南浜だより

笑顔 かがやく 南浜の子 ～つながり続け、豊かに学び表現する姿をめざして～

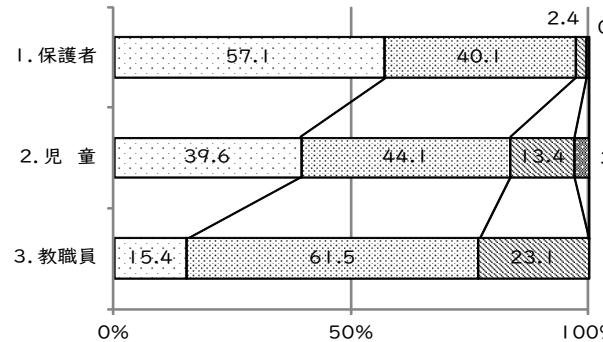
京都市立伏見南浜小学校 校長 今西 隆浩
TEL 075-611-0091 FAX 075-611-5107
minamihama-s@edu.city.kyoto.jp令和3年度 伏見南浜小学校
第2回学校評価
アンケート結果と考察
～生活面・自由記述欄(子ども)～

今年度の第2回目の学校評価アンケートは、7月に行ったアンケートと同じ内容でアンケートを実施しました。今回は、第1回目のアンケート結果と変化した箇所と保護者・児童・教職員の3者の捉え方に差がある箇所を中心に分析しました。

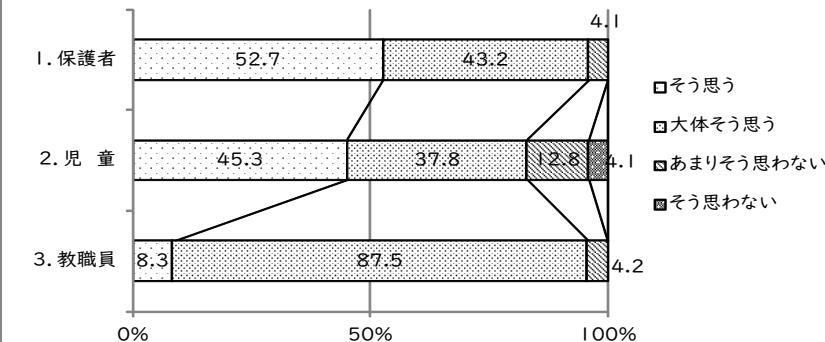
また、自由記述欄は、児童は「先生に伝えたいこと」保護者、教職員は「地域と保護者と学校が連携して教育活動を行うための工夫」についてご意見をうかがいました。



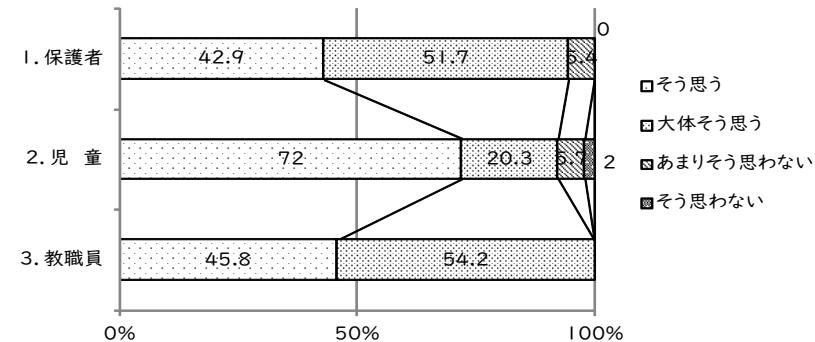
①1. 我が家では、進んで挨拶するように声かけをしている。
2. じぶんからすすんで、あいさつをしている。
3. 子どもが自分から進んであいさつできていると思う。



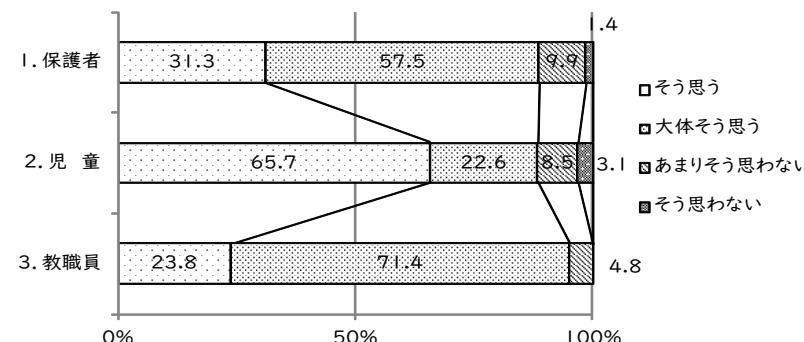
②1. 我が家では、子どもに、自分の気持ちを言葉などで表現するように促している。
2. じぶんの気持ちをあいてにわかるように、ことばでつたえることができている。
3. 子どもが自分の気持ちや考えを言葉などで表現できていると思う。



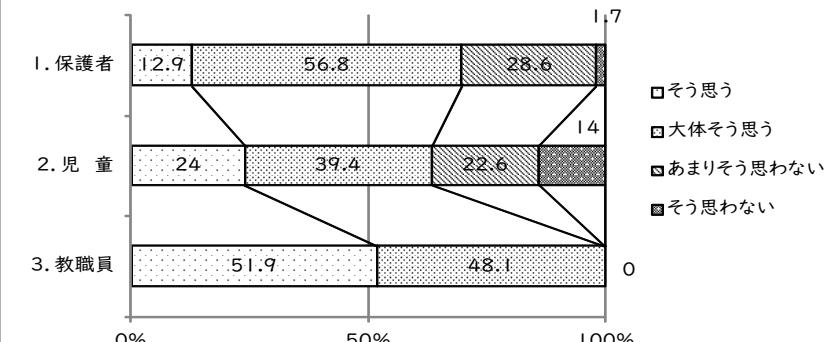
③1. 我が家では、子どものよさを認め、褒める努力をしている。
2. おうちでは、がんばったことをほめてもらえる。
3. 子どものよさを認め、褒めている。



④1. 我が家では、子どもの交友関係を把握している。
2. おうちでは、どもだちのことをよくはなしている。
3. 子どもの交友関係を把握している。



⑤1. 我が家では、丁寧な言葉で子どもと会話をしている。
2. おうちでは、ていねいなことばでおはなしをしている。
3. 丁寧な言葉で子どもや保護者と話している。



令和3年度 第2回 学校評価アンケート結果について

1月に行った学校評価アンケートでは、約300件のご家庭からの回答をいただき、ありがとうございました。

新型コロナウイルス感染症の拡大防止措置のため、様々な学校行事が中止、変更となった今年度ですが、学校では、昨年度に引き続き、手洗い、消毒、換気等の感染症拡大防止策に取り組みながら、子どもたちの学力保障に取り組んでまいりました。しかしながら、年末からのオミクロン株の大流行により学級閉鎖等の措置を取らせていただいたり、兄弟関係の登校自粛の要請をさせていただいたりと、保護者の方々には大変ご迷惑・ご心配をおかけいたしました。

今年度も残り1ヶ月となりましたが、児童・保護者・教職員それぞれがこの一年間を振り返り、良かったところは大いに褒め合い、課題があったところはみんなで知恵を出し合って改善し、さらにより良い伏見南浜小学校となるようにしていきたいと考えています。

～自由記述欄～

○児童「先生に伝えたいこと」

- ・みんながとっても優しくしてくれてうれしいよ。
- ・縄跳びを100回跳べるようになったよ。
- ・いつも勉強を教えてくれてありがとう。
- ・もう少し声を大きく言えるようになりたいな。
- ・いつも話を聴いてくれてありがとうございます。
- ・部活動が再開できる日が早く来てほしいです。

子どもたちの願いは、素直でまっすぐです。この純粋な思いをこれからもしっかりと受け止めて、対応していきたいと思います。

～生活面～

①「あいさつ」についての期待度に、児童・保護者・教職員の間に少し差があったように思います。約97%の保護者の方が「そう思う・大体そう思う」と、進んで挨拶ができるよう声掛けをしてくれています。それに対して約16%の子どもたちは「あまりそう思わない・思わない」と回答しています。また、教職員の「そう思わない」が約23%と回答しています。ですが、教職員の「そう思う」が、7月が約6%だったのに対して、今回は約15%と上昇しています。今年度は「自分の思いを主体的に伝える」をテーマに外国語を中心として研究を進めてきました。その中の取組の一つとして、毎週水曜日の「English day」での「Good Morning!」等、教職員と児童との英語でのあいさつ活動が、子ども達の「あいさつ」に対する意欲をあげたのではないかと感じています。「あいさつ」は、今後も引き続き、学校そして家庭、地域で大切にしていきたいです。

②「自分の気持ちや考えを言葉などで表現すること」について、教職員の「そう思う」は、約8%と低い数値ですが、「大体そう思う」と合わせると約96%と高い数値でした。7月のアンケートでは「そう思わない」が約19%であったのに対して大幅に上昇しています。今年度本校の目指す資質・能力の一つは「表現力」です。コロナ禍の中、子どもたちにつけたい力をどのようにつけるかを模索した1年間ではありました、「相手意識をもち、自分の思いを主体的に伝えることができる子の育成～充実した言語活動を通して～」を研究主題とし様々な取組を実践してきた成果ではないかと考えています。

③④「子どもたちのよさを認め、褒めること」「子どもの交友関係」については、それぞれ同じような結果が見られました。子どもたちの「そう思う」の数値に比べ、保護者、今教職員の数値が低くなっています。中でも③「子どもたちのよさを認め、褒めること」の教職員の数値は7月約56%から約46%と減少しています。これは、さらに子どもたちを見ていきたいという教職員の気持ちの表れではないかと思います。今後も現状に満足せず、「一人一人の子どもを徹底的に大切にする」京都市の教育理念のもと、教育活動を進めてまいりたいと思います。